

各地で行動

「憲法擁護すな戦争反対」「強行採決絶対反対」と叫びました。

駅前沿道 800人超埋める

岐阜市で12日夕、戦争法案の強行採決は絶対許さない」黙々とれんアヒールアクション第2弾が行われ、名鉄岐阜駅前の沿道を800人を超える人で埋め尽くしました。

スタッフの台図で「戦争反対」のプラカードを一斉に高く掲

げ、30秒間コール。許してはならない」と訴えました。

長椅子に座ってプラカードを掲げていた女性(71)は「紛争は戦争でなく外交で解決してほしい。法案が通れば自衛隊は危機にさらされる。悲しい思いは二度としたくない」と涙ながらに語りました。山県(やまがた)市の男性(67)は「孫が高校3年。将来が心配。追い詰められてい

る国づくりこそ求められている。無所属の田中正佳市議員は「命を粗末にする戦争法案は

るのは安倍政権。最後まで採決はするなど叫び続けるしかない」と話しました。

若狭市

青年ら歌で平和を訴え

名古屋市中区で13日、青年ら15人が安部法案の賛否を聞くシール投票や歌で平和を訴えるピースフェスを開きました。愛知県平和委員会青年学生部と日本うたごえ祭典実行委員会の共同。うたごえ祭典実行委員会は「青い空は」「折り鶴」など6曲を披露しました。

三島市

ママたちが歌やコール

静岡県三島市で12日、安部法案の強行採決に反対するパレードが行われました。県東部地域の子育てママ4人などが主催したもので、2度目です。

参加したのはママ、パパ、子どもたちを中心に40人。ギターやコーディオンで演奏して「戦争はもういやだを何度も合唱。打楽器でにぎやかに音を鳴らして「戦争しない日本が好き」「僕らの未来に武器はいらない」などコールもし

ました。沿道や店先でじっと見つめる人や、携帯のカメラで撮影する反応がありました。

2歳の男の子を連れて参加したママ(37)は「法案が瀬戸際でもたつてもいられない。解釈改憲というルール違反を強行するなんて許せない。国民の声を聞くまっとうな政治にかわってほしい」と述べていました。

戦争する国は皆で止めよう

富山県上市町で12日、「許すな戦争法案。法案反対共同行動上市町集会」とパレードが行われ、約50人が参加しました。

集会で、共産党の確井憲夫町議と社民党の酒井桂行町議がいさつしました。

新日本婦人の会県本部の滝沢孝子氏と、県平和運動センターの山崎彰氏が連帯のあいさつ。滝沢氏は近所で「孫まで戦争に行かされるのではないか」という話でもちきりになっていることを紹介し、廃案への決意を述べました。



戦争法案に反対するカードなどを掲げてパレードする人たち=12日、富山県上市町

リレートークで高見晃氏(75)が70年前の富山大空襲で命からがら逃げ出した経験をのべ、「戦争は絶対によつてはいけない」と訴えました。

集会後、参加者は「戦争法案絶対反対」「戦争する国みんな止めよう」とコールしながら、町の中心部をパレードしました。

9歳の時、長崎市内で被爆した高井ツタエさんが道行く人らに戦争体験を語りました。高井さんは、原爆を忘れるようとしても忘れることができなかったとし、「戦争法案には煮えくりかえる思い。絶対廃案にしたい。核兵器がなくなるまで死ねない」と話しました。

「原爆と人間」パネルも展示され、道行く人らが足を止め、熱心に見入っていました。戦争法案のシール投票では反対88、賛成7。反対に貼った男性(37)は「反対のデモがこれだけあるなかで、なぜ強引に進めようとするのかかわらない」と述べました。

9/16 旗